

日常生活で「？」が多くなったら

早期に受診することが大切です

●認知症かなと思ったら、医療機関を受診し、調べてもらいましょう

初期の症状の第一発見者は、家族や職場の方が多いです。しかし中には、ご本人が家族の気づきの前から認知症を疑って悩んでいることもあります。

そんなはずはない、もう少し様子を見ようと思ひ悩み、受診が遅れることがあります。認知症かなと思ったら早めに医療機関を受診し、調べてもらいましょう。認知症の薬は早期から服用することで効果が出ると言われています。



よく見られる初期症状

- 話のつじつまが合わない
- 仕事の約束や、待ち合わせを忘れて苦情を言われることが多くなった
- 以前と別人のような言動や行動が出てきている
- 簡単な料理が作れない、また同じメニューばかりになった
- 買い物やバス・地下鉄で小銭が計算できず、1万円札ばかり出す
- 元気がなく、周囲への関心もなくなり、意欲の低下が見られる
- 簡単な問いに返答できずにとまどっている



●どのような医療機関を受診するとよいのか

かかりつけの医師がいる場合は、まず相談してみましょう。若年性認知症の方だけを専門に診る医療機関はないので、「物忘れ外来」のある病院や、認知症を多く診ている精神・神経科、神経内科、脳神経外科などが認知症の診療科になります。

●受診時のポイント

若年性認知症の場合、不安を抱える本人の横で、医師への伝え方に苦慮したり、また介護者自身が思い悩んでいて、相談すべきことを短い時間に十分伝えることができないことがまま見受けられます。医師に状況を適切に伝えるためには、手帳やメモを用意し、以下のような内容を伝えましょう。

- いつ頃から、どのような症状が出始めたか、気づいたのは家族か職場の人なのか
- 本人はどのように受けとめているのか、本人の気分・感情
- 生活の中で支障をきたしている本人の行動や身辺動作、人とのかかわり方
- 家族として対応の仕方が分からないこと、困っていること
- これまで治療してきた病気や服薬の種類など
- 前回受診時からの変化や特に伝えたいこと

ちょっとアドバイス

限られた時間の中で、日ごろの状況を端的に医師に伝えるためには、ひと工夫が必要です。家族の方からの情報が一番のヒントになります。また本人のプライドを傷つけないように伝えることも大切です。告知の受け方についての要望があれば、併せて事前に意見や希望を伝えておくとよいでしょう。

- サービス利用状況を記載した手帳なども医師に見てもらいましょう。自宅以外での生活情報が役に立ちます。
- 各団体などが作成している手帳も活用できるでしょう。

手に取ったことがありますか？

「NPO法人北海道若年認知症の人と家族の会」は、受診手帳を発行しています。受診手帳を使い、本人の生活状況、言動、家族が聞きたいことを記録し、見てもらいましょう。複写し、写しを手元に残し記録を医師に手渡すこともよいでしょう。



1冊 300円〈家族の会に申し込み〉